

- R8.7.13分科会では、これまでの検討委員会や分科会での議論と、まちづくりラボで出た意見・アイデアは概ね整合が図られていることを確認。
- 今後、まちづくりプラン検討にあたって考慮し、施策に結び付けられる意見・アイデア等について、改めて事務局にて抽出を行った。

考慮する意見・アイデア	分科会意見（R8.7.13）	今後の対応（案）
● 子どもから大人まで多様な人々が集える場所の創出	● 市民の方は、自分達の生活・暮らしがどう豊かになるかを大事にしており、「子ども」といった視点での意見が出たことも興味深かった。 ● 熊本のまちの大人たちは「子どもの頃から街で遊んでいた」という共通した経験があり、そうした経験の厚みのようなものからの意見でもある。	・「まちづくりの視点」等においても、重要な観点として捉えており、まちづくりプランの実現に向け、民間の開発・更新プロジェクトと合わせ、低層部へ賑わい機能を導入するなど、多様な世代が集い交流できる場づくりの検討を進める。 ・現庁舎跡地地利活用における導入機能や空間構成等の検討に当たり、多様な人々が日常的に利用・交流できる場づくりの視点を取り入れる。
● 魅力的なオープンスペースの創出 ● 民間の建替え等に合わせた貫通道路の整備	● 公開空地であっても、単一ではなく個性のある空地を目指すべきといった意見が出たのは良かった。 ● 公開空地の取り方と歩行者ネットワークはつながるものであり、まちにとって有益である。また、公開空地は、単なる空間整備ではなく、建物の価値を上げ、建物側にも有益であることを、建物を整備する事業者側にも理解してもらうことが重要。	・「各ゾーンにおける取組方針」等においても、重要な観点として捉えており、まちづくりプランの実現に向け、民間の開発・更新プロジェクトと合わせ、魅力あるオープンスペースや歩行者ネットワークの形成、快適な歩行環境の創出に向けた施策の検討を進める。
● 熊本城が、市民や観光客がもっと自由に滞在できる空間にするため、周辺に日常使いできる施設やイベントがあるといい ● お城や川沿いを眺めることができるカフェなどがあるといい	—	・現在、熊本城では、復旧工事を進めながら、周辺の施設等と連携しながら季節ごとに「お城まつり」を開催するとともに、天守閣前広場などにおいて、民間主体のイベント開催ができる制度の運用を開始するなど、活用による魅力づくりに取り組んでいる。 ・頂いた意見等は、「各ゾーンにおける取組方針」等においても重要な観点として捉えており、まちづくりプランの実現に向け、民間の開発・更新プロジェクトと合わせ、熊本城や河川空間などの景観資源を活かした滞在空間の形成や滞在環境の向上に向けた施策の検討を進める。
● 上通り方面からお城へのアクセス向上	—	・上通り方面から熊本城への動線は、中心市街地の賑わい波及において重要であるため、今後は回遊性の向上に向け、効果的な施策の検討を進める。 ・しかしながら、現在、熊本城では、復旧工事による立ち入りが制限されており、安全性の観点から、須戸口門や不開門からの入城が出来ない状況。 ・一方で、地震 10 年の節目に竹の丸を特別に解放するイベントを期間限定で行っており、今後も復旧状況に応じた公開エリアの拡大を検討していく。
● 跡地はシンボリックな拠点、人を呼び込む目的地とするため、それにふさわしい用途を導入する。 （例）キザニア、ハイクラスホテル、ルーフトップバー、大学誘致、サブアリーナ、地下水スパ、都心型IKEA、など	—	・今後の現庁舎跡地地利活用については、一等地にふさわしい集客性やシンボリック性を備えた導入機能を検討するとともに、エリア全体の価値向上や回遊性の向上につながる拠点形成を目指す。
● 新庁舎周辺エリアが来訪者、働く人、居住者が集える場所になるといい	—	新庁舎については、市民が気軽に集い、市民協働や交流に資する庁舎を目指すとともに、その周辺の各エリア（区役所周辺、現庁舎周辺、中心商店街等）を一体的につなぎながら、まち全体に賑わいを波及させるための効果的な施策の検討を進める。

●路地の歩行者空間化、歩行者天国 ●自動車の通行規制や速度規制 ●緑陰や植栽による快適な環境整備		・社会実験を行い実態把握に努め、効果的な施策の検討を進める。
●歩行者空間の快適性の向上		
●路地や通りでの朝市・フリーマーケット	●（交通量の多い道路の歩行者空間化など）難易度が高い取組みは、まずは、社会実験から始めて実現可能性をさぐってみるということもある。	・ほこみち制度による公共空間の有効活用について、現在、通りの商店会と意見交換するなど、導入に向けた調整を進めている。引き続き周知啓発を進め、社会実験等も活用しながら、制度の浸透を図る。
●通りの魅力アップ（イベントフラッグ、低層部の緑化など）		・「各ゾーンにおける取組方針」等においても重要な観点として捉えており、まちづくりプランの実現に向け、沿道空間の緑化や魅力ある沿道空間の創出など、通りごとの個性と魅力を高める民間の取組を促進するための施策の検討を進める。
●回遊性向上のため、駕町～銀座通りの動線を重視する。	●（銀座通りは、）プランに、回遊のうえで重要な場所としている“ラダー”上の路線であるが、まずは、具体的な取組として社会実験から実施してはどうか。	・銀座通りは新庁舎からアーケードを結ぶ重要な動線であり、歩行環境向上に向けた歩道拡幅など、地域との協議や社会実験等を行い、効果的な施策検討を進める。
●電車通りの東西の回遊性を高める。 ●人々が東西の電車どおりを超えたくないように、広場にぎわいある低層部をつくる	●ラボでは、デッキや地下通路といった意見も多く出されたが、地下の動線は、地下鉄や地下街などの目的地がある場合に有効である。熊本の特性を踏まえると地上レベルでの回遊性向上を図ることが望ましいと思う。 ●地上を回遊のメインと考えていく場合、現状がどのように変化するかを示すことが大事。例えば、道路横断の仕組み、つなぐポイントの提示など、電車通りの隔たりを解消する提案が必要ではないか。	・回遊性の向上は地上レベルを基本として検討することとし、懸念される電車通りの分断については、横断方法のあり方や信号待ちの待機場所などについて、更には、民間ビルとの民間の開発・更新に合わせた回遊・滞在空間を創出するような対応策の検討を進める。
●オフィス街の賑わい創出（低層部の賑わい機能導入） ●低層部の活用の例（飲食、文化施設、インキュベーション施設、明かりの演出）	—	・「各ゾーンにおける取組方針」等においても重要な観点として捉えており、まちづくりプランの実現に向け、民間の開発・更新プロジェクトと合わせ、低層部への賑わい機能の導入など、にぎわい創出と回遊性向上に向けた施策の検討を進める。
●投資を誘導するインセンティブの充実 ●改築（リノベーション）に対して支援を行う	—	・「まちづくりの視点」、「取組の方向性」、「各ゾーンにおける取組方針」等においても重要な観点として捉えており、まちづくりプランの実現に向け、「都市活動の軸」における大規模な民間投資や、中心商店街エリアにおけるリノベーションへの支援など、各ゾーンの目指す姿の実現を図るための施策の検討を進める。
●TSMCの波及効果を活かす産業拠点の創出、デジタルサービスの強化	—	・更に、エリアの価値向上や波及効果が期待される先導的な民間開発等については、その実現に向けた支援のあり方の検討を進める。
●通りの個性に合わせた魅力的な街並み・景観形成を実現するための勉強会やまちづくり活動の実施 ●投資を促進するための（福岡天神エリアのエリアマネジメント団体のような）協議体の設立	●組織体を作ることも大事だが、まずは情報発信やまちづくりに興味を持ってもらうことが大事。そのような場があってもいいのでは。 ●民間の取組については、網羅的な支援ではなく、他をけん引するような核となる取組を重点的に支援してはどうか。	・行政は民間の主体的な取組みを尊重し、まちづくりのルール策定等を検討する団体に向けた支援を行う。 ・ワークショップ、意見交換会など、目的やテーマに応じた効果的な手法を組み合わせるまちづくりに関する情報発信や意見交換を実施する。